

義太夫

義太夫協会々報
第30号

昭和58年12月3日
社団法人 義太夫協会発行
〒104 東京都中央区銀座
6-18-2 新橋演舞場B2
TEL (541) 5471

「女流義太夫の今昔」の反響

義太夫協会会長 吉川 英 史

去る九月二十九日、国立劇場で開催された「女流義太夫の今昔」は、満員好評であったこと、ご同慶の至りである。あの時の成功にヒントを得てNHKが女義のテレビ放送を企画するという。このことだけでも、あの公演の成功は証明されたといつてよからう。

あの演奏会を成功させた原因には、単に「名曲の名演奏」という企画でなく、話題になる企画を立てたことだと思ふ。話題になると思ふからこそ、いろいろな新聞も取り上げてくれたので、余計に客を呼んでくれることになった。このことは、今後の演奏会の企画に取って忘れてならない教訓であろう。

しかし、どんなに企画が良くても、出演者

がうまくなければ成功しないのはもちろんである。その意味でも出演者にそれぞれ頑張ってもらえたので、結構であった。演奏者ばかりでなく、司会者三國一朝氏の起用とスライドの利用も成功の原因だったと思う。三國氏の持ち味は実にあの公演にぴったりであった。特に成功したのは、「野崎村」の段切の大会奏であった。このような曲が、もつと沢山あると良いのだが、これに匹敵する大棹の大会奏曲が新作されることを望みたい。耳の肥えたファンは、竹本土佐広・鶴澤寛八のコンビによる「沼津の段」、竹本染登・鶴澤友路コンビの「湊町の段」ともに堪能しようである。ただし、「湊町の段」は、残念ながら

音量不足で聴き取りにくかったということであるが、もつと一般的に馴染みの深い有名な曲であったら、少し位声小さくても、理解し易かったであろう。選曲とマイクの使用の問題が、将来の課題になるかも知れない。あの会に寄せられたアンケートも、大抵好評で、骨折甲斐があったと喜んでゐる。しかし、世の中にはいろいろな人がいて、いろいろな見方もあるもので、名古屋方面で出されたパンフレットには、いろいろ誤解して書いた文章が載せられている。事実をよく確めないで書くと、こういうような書き方になるものかと教えられた。

ところで、来年は竹本義太夫が、貞享元年（一六八四年）大坂道頓堀に竹本座を創設してから三百年になる。義太夫関係者はその意義深い年に巡り会ふ喜びに、感謝しなければならぬ。義太夫節創始三百年を、大いに祝わなければならない。

さて、どのように祝つたらよいか。どんな企画をしたらよいか。衆知を集めて検討して頂きたい。



御礼

義太夫節保存会会長

豊澤仙廣

九月二十九日の「女流義太夫の今昔」は、久々の国立劇場公演ゆえ、如何なりゆくか心配のあまり、お客様方に御挨拶状でお願い申し上げました。いつもは招待状の半分もお出し掛けがないのですが、今度は全員いらして下さいました。企画が良かったのだと、始めて企画の大切さを感じさせられました。

大入満員のお客様が、どなた様もよかったですよかったですとおほめ下さり、私の最後の舞台に花を添えて下さいました。贈り物は一切おことりしたので、私の部屋は花がいっぱいで、子供時代の「花咲かじいさん」を思い

出し「花咲かせばあさん」になったよううれしさで、心身共にすっかり若返りました。御後援下さいました皆様に厚く厚く御礼申し上げます。次第でございます。

また、此度びの国立公演の赤字、五拾万円は河野国声先生が寄附して下さいました。役員一同誠に有難く御礼を申し上げます。

舞台出演を引退したのですが、保存会と協会の仕事には益々力を入れて名人の卵を育てよう努力いたします。義太夫節御支援の皆様、若人の成長を見守ってやって下さいませ。寒さの折から御自愛をお祈り申し上げます。

思いつくまま

——豊澤仙廣さんに——

竹本土佐廣

秋も深まり、朝夕は肌寒さを感じる今日の頃です。皆様方にも、充分風邪などに御注意下さい。

去る九月二十九日の催しは予想外の大入満員で、大方の評判も良く「面白かった」「盛大で結構でした」との声で、最近にない大会でした。これもひとえに会長吉川先生の新企画のため、又、会長の御熱意が一同に伝わったからのことと存じ、喜ばしい気持ちでいっ

ぱいです。私も初めからずうっと聴き度かったのですが、自分のことが心配でそれも出来ず残念でした。

会が終わって二、三日後、ほっとしたところで会報の仙廣さん引退の記事を見てびっくりしてしまいました。大会でも引退の御挨拶をされたそうですが、私は舞台を下りたばかりだったので聞くことが出来ず、会報で初めて知ったのです。どうしても気になるので、考

えついたことを言わせて頂きたいと思います。全く引退ということには反対です。何故ならば、私の悲しい思い出があります。今でもはっきり目に焼き付き頭から離れません。それは、私の恩師の土佐太夫師の引退なさった時のことです。師匠は御自分で舞台の上から挨拶をなさって、最後の言葉に「感無量にございます」と言われた時の寂しい御顔、そしてその後の淋しそうな御姿をずうっと見るのが辛くて、思い出しては泣き、泣けて泣けて仕方ありませんでした。

淋しそうだった師匠の御姿と仙廣さんが二重うつしに見えて、私には心配でなりませんが、引退なんて淋しいことはおっしゃらなくてもいいのにと心から思います。私の方が二年も年長です。でも頑張ってます。先日、回向院の集りで大変褒めて下さった時、穴があったら入り度い恥しい気がしました。まだまだ、もっともっと勉強して人様にお稽古しながら自分の勉強として行き度いと思ってます。

会の運営のことは立派な会長の下に、若い新進気鋭の方々にお任せして、私達は芸の上で皆様と手を取り合って女義界のため、また次の代を引き継ぐ方、またその次と、益々発展出来るよう、邦楽界に息長く残って行くようにその一助となろうではありませんか。お互に老年です。体に気をつけて無理をしないようにして、少しでも長く芸をやって行けるよう、また少しでも若い方に芸を伝えられるようにと思えます。如何でしょうか。十月九日夜、思いつくままに書きました。(名誉会員)

あい次ぐ盛況

教師のための義太夫講習会おわる 58年11月21日 本牧亭

9月29日、国立劇場の「女流義太夫の今昔」に次いで、11月21日「教師のための義太夫講習会」(本牧亭)も大入満員の盛況で、関係者一同、自信を深めています。

今回の講習会で特筆すべきこととして、①義太夫を聞くのは初めてという若い先生の参加が多かった ②中でも国語の先生が多かった ③東京周辺の学校からの参加が目立った ④アンケートの回収率が高かった、以上4点があげられると思います。7月20日の同講習会で参加者数の記録を作りましたが、今回は更にそれを上廻りました。7月のテーマは、「日本の音楽教育に於て、なぜ邦楽が忘れられてきたか」(八王子車人形参加)、今回は「日本人の音感について」(乙女文楽・ひとみ座参加)このようにテーマをしぼったことが先生方の要求と一致したのでしょうか。或いは、講習会を始めて8年目にして、漸く定着してきたということでしょうか。嬉こばしいと同時に、責任を痛感しています。

また、このたび初の試みとして、関西でも講習会を開くことになりました。女義の人間国宝・竹本土佐広師、文楽の人間国宝・桐竹勘十郎師の豪華な競演。解説に、羽衣短期大学学長・吉永孝雄氏、大阪女流義太夫を励ます会代表・高橋正毅氏が予定されています。

* 12月5日(月) 6時開演 * 京都府立文化芸術会館

~~~~ 当日のアンケートから ~~~~ (一般の方を含む)

義太夫を聞いたのは

今回初めて…… 38人    2回目…… 10人  
3回目…… 8人    4回以上…… 18人  
無回答…… 4人

講演・解説について

- 日本人の音楽に対する考え方が良くわかった。
- わかり易く、参考になった。
- 三味線の表現力の豊かさに驚いた。
- 三味線の実例が具体的で、素人にもよく判った。
- 質問の時間が欲しかった。
- 教育が西洋音楽一辺倒なのを残念に思う。

演奏・人形について

- 義太夫というのは音だけだと思っていましたが役者さんなんだなあと感じています。
- 迫力に圧倒された。
- 思わず引き込まれ、夢中で聞きいった。
- 人形さんの仕草が、とても艶やかです。
- 人形はもう少したっぷり見たかった。
- 生徒にも見聴きさせるべきものだと思った。我々教師の怠慢と反省している。

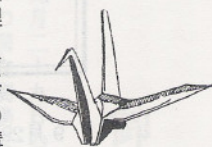
たたみ敷の会場について

- 雰囲気は良いが足・腰が痛い。
- 人との触れ合いが密で、大変暖かな感じ。
- 後ろの方は見にくい。パチさばきが見えない。
- もっと空いていたらタタミでもよい。
- お膝おくりがあって、なごやかな雰囲気だった。
- 当たり前!
- 苦痛以外の何ものでもない。
- 3時間座っているのは苦しかった。が、良き芸を見て、足のしびれも心地よいものだった。
- 狭いです。せめて足を伸すゆとりを。

参加された先生の教科別内訳

国語…… 65人    音楽…… 11人  
社会…… 8人    校長(又は全科)…… 4人  
美術…… 4人    英語…… 2人  
数学・家庭・保健体育・演劇・養護……各1人  
.....

開場時間前から受付に行列が出来、下足札が足りなくなるという混雑でしたので、たたみに慣れない若い先生には、特にお気の毒でした。「たたみか椅子か」は、永年の課題で、協会としても迷っているところです。



## 芸か人か

池田 弘 一

松鯉・貞吉の講釈が好きで本牧亭の昼席に足しげく通っていたのは既に三十年の余も前の学生時代。講釈の続きで月のはなの女義太夫もよく聞いた。なぜか小津賀という名が記憶に残っている。そのうちに松鯉・文楽といった人も義太夫の稽古を始め、毎月十八日の松鯉会は素龍との二人会になった。そこで素龍が何を語ったかはまるで覚えていない。

さて、その女義太夫を本気で聞くようになったのは五十五年十二月の忠臣蔵からだ。私は驚いた。いや、あきれた。実にあくの強い芸を、むきになって演じている人を見つけ、そして聞いたのだ。私は自分の耳を疑った。邦楽界、どこの会へ行ったら、みんなが妙におさまって、すかした芸で氣どっている当節だのに、この人たちはどうしたことだ。まともに義太夫そのものを語っている。まぎれもない芸の人の集団だと感じたのである。——ここで私は芸の巧拙を問題にしているのではない。——

あれから三年、いなくなった人がいる。病いを養っている人もいる。そして若い人が加わってきた。客席の層も徐々に変化をみせている。そのなかで私がいま感じていることは、「むきな芸の魂」がうすれてきているのではないかということだ。ある人は言うだろう、

熟達者たちは老齢を迎えていると。あるいはきまり文句のように言う、三味線陣の不足をさらには私の考えを否定して誇らしく言うだろう、せんだっての国立小劇場における盛況と、その熱気を。

なるほど野崎のオクリで客席は興奮もしたろうし、その華麗な舞台に拍手を惜しみはしなかつたろう。しかし、私は思う。あの拍手は演奏が演奏として見事だったということではない。仙廣の気ぐみ、おそらく命をかけていたであろう——本人の意識とは関係ない——その気魄と心情とにうたれ、その思い切ったかけ声をとまなう統率力とに対して、そしてそのリードに合わせようと努力した少数の演奏者に対しておくられたものであらうと。

芸に与えられた拍手ではなく、人に与えられた拍手であると思うのが私だけであれば幸いである。あらかじめ妄言であることを詫びつつ更に言おう。あの「野崎村」は明らかに引き出しの中の芸の羅列に過ぎない。なるほど役々の語りにそつはない、またあらうはずのない顔ぶれである。それなのに役々の間にはすさまじい風が吹き抜けていた。どうしてだろう。舞台が大き過ぎたのか、そんなことはない。それは本牧亭における掛合いの情性的な延長に過ぎなかつたからである。

若手に小言をいう立場の人たちも掛合いになると、しばしば行儀の悪さが目立つ。シンの太夫が語りこんでいるさなかに、自分の床本を無神経にはぐる者があり、自分の持ち場が終ると明らかに気を抜いて、ただ一個の老婆となつてゐる者がいる。だから、いかにうまい節があり美音があつても一曲の感動が持続できない。そのへんのことをほんとうの客は肌身で感じてゐるからアンケートの結果が一人語りを望むことになるのだから。

十一月十七日、「この人」というテレビ番組で高峰三枝子の母なる人の手記が読まれた。「こんな人は今まで世になかつたと言われる人になつてほしいというのが母の願い」とあり、さらに実妹は言った。「はなやかに、女優として精いっぱい生きてほしい」と。私はこの言葉をそのまま女義太夫界の熟達の諸師に捧げる。

この芸界に身を置くかぎり、決しておさまつてしまつてもらつては困る。芸のほむらを燃やし語りあげてほしいのだ。引き出しの中の芸を小だしに陳列されても本牧亭の夜は感動の夜とはならないのだ。太夫と三味線とが取っ組み合いの稽古をして出演する。それを客の一人一人が渴望している。内部の事情に負けないでほしい。

——さらに機会を得て具体的な提言も申し述べたい——

芸と共に年を送り、芸と共に新らしきよい春を迎えられますよう祈る。

(都立工業高等専門学校教授・特別会員)

義太夫節保存会主催

# 女流義太夫の今昔

—娘義太夫から人間国宝まで—

△アンケートから▽

- スライドを混え、バラエティーに富んだ内容だったことが喜ばれたと思う。
- 若い人の「昔の風俗」も仲々のものだが、長老の声の艶といい、語りの確かさ、流石鍛えぬかれた芸の力、唯々感服の他なし。
- 一番うれしかったのは、若い人たちがあんなに沢山育っていること。住居が近いので本牧亭へも今後出かけましょう。
- スライドやインタビューを通じて、女義の魅力がよく伝わって、興味深かった。
- 五十五・六年前、大阪の播重でいささか修業いたした者です。今昔の感にたえませんが、三部の演奏がよく聞こえなかった。
- 染登師の古淡の芸、土佐広師の重み、ともに味わい十分。
- 若い人達は、こういう催しがあること知らないのです。もっと若い人に出て欲しい。若い人が語らねば若いお客も来ないと思います。大事なことです。
- 野崎村の演出がニクイ!
- 出演者御熱演、司会者の確、企画結構。
- 三国さんの司会も落ちついて品があり、全に程よく大変勉強になりました。



左から、司会の三国一朗氏  
竹本土佐廣師・竹本染登師 (佐藤公夫氏撮影)

△御寄附▽

本公演に対し次の皆様から御寄附を頂きました。中でも、プログラム・チラシ等印刷一切をおひきうけ下さった高野俊雄氏、本公演の五十万円の赤字を補填して下さった河野国声氏、お二人の常任相談役の御援助は誠に有難く、紙面を借りて厚く御礼申し上げます次第です。皆様、どうも有難うございました。

|          |            |
|----------|------------|
| 河野 国声様   | 一〇〇、〇〇〇円   |
| 更        | 更に五〇〇、〇〇〇円 |
| 竹本 朝重様   | 一五〇、〇〇〇円   |
| 竹本駒之助様   |            |
| 山口 操様    | 一〇〇、〇〇〇円   |
| 渡辺 兼佐様   | 三〇、〇〇〇円    |
| 内野アキコ様   | 一〇、〇〇〇円    |
| 常磐津節保存会様 | 一〇、〇〇〇円    |
| 和田 博様    | 一〇、〇〇〇円    |
| 杉本 英明様   | 六、〇〇〇円     |

## 女流義太夫の今昔

NHKテレビで再現

△来年2月3日放映予定▽

—公開録画に参加なさいませんか—

「女流義太夫の今昔」の第一部「昔の演奏」と、野崎村の段切をNHKテレビが収録、3チャンネル「邦楽百選」で放映することになりました。テレビの司会進行は、三国一朗・山川静夫両氏です。

来る12月19日(月)午後7時より

NHKスタジオにて公開録画を行います。只今、お客さまとして公開録画に協力して下さる方を募集しています。

どうぞ奮って御応募下さい。

お申込み・お問合せは事務局まで

協会の動き

昭和58年9月より  
昭和58年12月まで

- 9月20・21日 義太夫協会公演会 20日には竹本土佐廣・豊澤仙廣両師に名誉会員の感謝状が贈られた。
- 9月29日 於本牧亭 女流義太夫の今昔―娘義太夫から人間国宝まで―開催(義太夫節保存会主催、文化庁・義太夫協会後援、吉川英史監修) 大盛況であった。(4・5頁参照) 於国立小劇場 会報「特集豊澤仙廣」発行
- 10月10日 於回向院 祖先祭
- 10月12日 文化庁・東京都教育庁により、伝承者養成事業(義太夫節保存会)の監査行わる。
- 10月15日 於新小松 公演部会
- 10月15日 昭和58年度民間芸術等振興費補助金交付申請書提出
- 10月20・21日 義太夫協会公演会 於本牧亭 学校巡演(車人形参加)
- 10月28日 世田谷科学技術学園高等学校 鶴澤三生師、勲五等瑞宝章叙勲
- 11月3日 芸団協邦楽部門会議 於芸団協
- 11月4日 昭和57年度決算報告・58年度事業計画・定款の一部変更認可申請書 東京都教育庁に提出
- 11月13日 第3回娘義太夫精進の会(鈴木一光氏助成) 於雷中会館
- 11月17日 定例理事会・保存会役員会 於新小松
- 11月20日 義太夫協会公演会(車人形参加) 於本牧亭
- 11月21日 教師のための義太夫講習会(乙女文楽参加・3頁参照) 於本牧亭
- 12月3日 義太夫協会会報第30号発行

豊澤仙廣師より寄附

義太夫節保存会に百万円  
義太夫協会に百万円

前号でお知らせしたとおり、義太夫協会副会長を若い人に譲った豊澤仙廣師は、九月二十九日で舞台を引退なさいましたが、それ際して、義太夫節保存会・義太夫協会に各々百万円ずつ、計二百万円もの御寄附を下さいました。どうも有難うございました。

おめでとう  
ございます

鶴澤三生師  
勲五等瑞宝章叙勲

白内障治療のため東海大病院に入院中だった鶴澤三生師が、このたび勲五等瑞宝章を受章されました。神奈川版の新聞には写真入りで大きく報道されましたが、東京版その他の版をお読みの方に、改めてうれしいニュースをお届けいたします。このほど漸く退院され、十一月十五日、晴れの授章式には駒之助さんがお供して、御自身で出席されるまでに回復、「皆様のお力添えのおかげです」と喜びをかみしめておられました。只今、自宅にて静養中です。一日も早い全快をお祈りいたします。

佐々木監事

東京都功労者に

協会監事の佐々木明郎氏は、十月一日都民の日に「学校教育の振興に尽力されすぐれた業績をあげられた」ことにより東京都功労者として都知事より表彰されました。

社団法人義太夫協会 昭和57年度 収支決算報告書

| 勘定科目  |           | 収入の部       | 支出の部       | 差引損益         |
|-------|-----------|------------|------------|--------------|
| 助成金   | 国庫補助金     | 4,100,000  |            |              |
|       | 日本放送協会    | 200,000    |            |              |
|       | 芸団協       | 150,000    |            |              |
| 寄附金   |           | 2,574,000  |            |              |
| 会費収入  |           | 1,347,000  |            |              |
| 雑収入   |           | 538,618    |            |              |
| (小計)  |           | 8,909,618  |            |              |
| 事業費   | 義太夫教室     | 697,500    | 4,300,460  | △ 3,602,960  |
|       | 学校巡演      | 240,000    | 1,687,660  | △ 1,447,660  |
|       | 教師のための講習会 | 96,500     | 2,547,145  | △ 2,450,645  |
|       | 協会公演会     | 1,251,150  | 3,724,970  | △ 2,473,820  |
|       | 慈善公演会     | 403,775    | 403,775    | 0            |
|       | 東京都邦楽演奏会  | 621,150    | 456,200    | 164,950      |
|       | 祖先祭       | 0          | 93,185     | △ 93,185     |
|       | 資料蒐集      | 0          | 76,020     | △ 76,020     |
|       | 研究室       | 0          | 803,900    | △ 803,900    |
|       | 会報費       | 0          | 237,010    | △ 237,010    |
|       | 育成費       | 0          | 60,000     | △ 60,000     |
| 懇親会   | 182,500   | 258,190    | △ 75,690   |              |
| (小計)  |           | 3,492,575  | 14,648,515 | △ 11,155,940 |
| 一般管理費 | 事務所費      |            | 110,780    |              |
|       | 家賃        |            | 501,869    |              |
|       | 事務・消耗品    |            | 75,950     |              |
|       | 事務費       |            | 67,480     |              |
|       | 給料・諸手当    |            | 1,647,000  |              |
|       | 交通費       |            | 194,080    |              |
|       | 通信費       |            | 297,840    |              |
|       | 交際・慶弔費    |            | 193,880    |              |
|       | 会議費       |            | 124,990    |              |
|       | 光熱費       |            | 11,943     |              |
|       | 印刷費       |            | 118,080    |              |
|       | 諸税公課      |            | 10,000     |              |
|       | 手数料       |            | 8,330      |              |
|       | 宣伝費       |            | 43,500     |              |
|       | 諸雑損       |            | 24,000     |              |
| (小計)  |           |            | 3,479,422  |              |
| 合計    |           | 12,402,193 | 18,127,937 | △ 5,725,744  |

歌舞伎の義太夫Ⅱ竹本連中の  
後継者養成事業

竹本講習について(十)

昭和50年9月10日に発足した竹本講習も、  
今秋で丸8年を迎えたわけですが、発足時の  
協会々報第7号「竹本講習始まる(その1)」  
を記してより年々書き継ぎ、今回で「その10」  
に当たりますので、この辺でまとめてみたいと  
思います。別掲の一覧表の通り、17名が卒業

し、今11月などは一人の休みもなく働いてお  
りますが、全く無から大変な有を生じたわけ  
で、あらためてびっくり致します。  
これはベテランの太夫・三味線計14名を上  
まわっております。発足時22人(平均年齢64  
歳)のうち、6人が亡くなられ、引退同様の  
人が少しおられるので、現在太夫6名・三味  
線8名、その平均年齢は65歳です。この  
8年間の成果は驚きと申せましょう。現在七  
期生2名が研修中ですが、これら若い人達を  
どのように育て、いくのか、この辺で再検討  
の要ありと存じます。

| 期                          | 芸名     | 年齢 | 11月の出勤 |
|----------------------------|--------|----|--------|
| 第一期                        | 竹本 清太夫 | 48 | 文化庁巡業  |
|                            | " 国太夫  | 35 | 国立劇場   |
| 第二期                        | 野沢 賢治  | 35 | 歌舞伎座   |
| 第三期                        | 竹本 葵太夫 | 23 | "      |
|                            | " 初太夫  | 33 | "      |
|                            | " 重太夫  | 36 | 国立劇場   |
|                            | 野沢 松也  | 28 | "      |
|                            | 鶴沢 寿治郎 | 31 | 前進座巡業  |
| 第四期                        | 竹本 泉太夫 | 32 | "      |
|                            | 鶴沢 泰二郎 | 26 | 国立劇場   |
| 第五期                        | 竹本 谷太夫 | 27 | "      |
|                            | " 久磨太夫 | 26 | "      |
|                            | 豊沢 和雄  | 32 | 歌舞伎座   |
| 第六期                        | 竹本 幹太夫 | 21 | "      |
|                            | " 朋太夫  | 27 | 文化庁巡業  |
|                            | " 巽太夫  | 25 | 歌舞伎座   |
|                            | 鶴沢 宏太郎 | 23 | 文化庁巡業  |
| 太夫11名・三味線6名 計17名 平均年齢29.8歳 |        |    |        |

高野 俊雄氏

女流義太夫の今昔

プログラム・チラシ一式

和田 博氏

女義番附写真 二葉

初代綾之助錦絵写真 二葉

綾之助物語(コピー) 一部

竹本土佐広師

肩衣 十四枚

高座用座布団 三枚

計報

須賀佳津子氏(賛助会員)58年10月15日逝去

(開演前から座っていらした須賀さんの姿が見えず、寂しい限りです。)

御冥福を心からお祈り申し上げます。

訂正

前号・豊澤仙廣特集6頁「両国回向院に初代竹本綾之助の墓所」とありますのは、二代目竹本綾之助の誤りでした。初代は、台東区蔵前の榎寺にまつられています。右、お詫びして訂正いたします。

編集後記

「行政改革」の影響か、  
この小さな団体も監査統  
き、多忙を極めた一年でしたが、新体制も軌  
道にのり、実りの多い五十八年でした。あと  
は、テレビの収録と「忠臣蔵」が満席になれ  
ば萬々才、本年最後の事業をどうかよろしく  
お願いいたします。来年は義太夫節創始三百  
年です。どうぞよいお年を。